

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-127210

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月19日

(51) IntCl.⁵

A 0 1 K 85/01

識別記号

F I

A 0 1 K 85/01

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-286938

(22) 出願日 平成8年(1996)10月29日

(71) 出願人 596156266

山野井 俊輔

大阪府守口市大日町4丁目24番14号

(72) 発明者 山野井 俊輔

大阪府守口市大日町4丁目24番14号

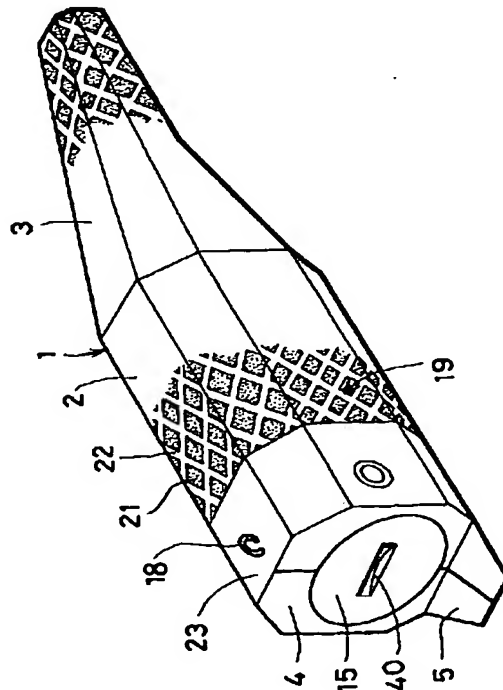
(74) 代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ルアー

(57) 【要約】

【課題】 光沢性のある着色を施したルアーの内部に電池と発光体を取納した場合に、上記着色の効果を失うことなく発光体の光を外部に放散させ、暗がりでのルアー釣りができるようにすることである。

【解決手段】 内部に電池と発光体を取納した透明のルアー本体1の中心線と直角方向の断面形状が多角形であるように、ルアー本体1の外表面を多数の平面の集合により形成し、上記ルアー本体1の外表面に、着色部21と透明部22とが混在する着色フィルム19を貼着した。



Best Available Copy

【特許請求の範囲】

【請求項1】 透明又は半透明のルーア本体の内部に電池及びその電池に通電された発光体を内蔵してなるルーアにおいて、上記ルーア本体の中心線と直角方向の断面形状が多角形であるように該ルーア本体を形成し、上記ルーア本体の外周面に着色部と透明部とが混在したフィルムを貼着したことを特徴とするルーア。

【請求項2】 上記ルーア本体は、胴部及びその胴部の後端に連続した尾部を有し、上記胴部の表面はルーア本体中心線に平行な多数の平面により形成され、上記尾部の表面はその後端に至るに従い上記中心線に近づく傾向の傾斜した多数の平面により形成されたことを特徴とする請求項1に記載のルーア。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明はルーアに関し、特に発光体を内蔵したルーアに関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般的にルーアは、プラスチック成形品により曲面三次元の外形面をもったルーア本体を形成したのち、その外表面にアルミ蒸着を施すと共に、その上に塗装を行うことにより、光沢性の着色を施したものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記のごとき従来のルーアの製作において、ルーア本体がプラスチックであるため、金属に比べてアルミ蒸着及び塗装の密着度が弱く、剥離しやすい欠点があり、また上記のアルミ蒸着時や塗装時にプラスチックのルーア本体が静電気を帯びることから、空気中の浮遊物が付着しやすく、不良率が高い欠点もある。

【0004】また、実際の釣りの現場において、魚の捕食活動が活発となる早朝や夕暮れの暗がり時に、釣人からのルーアの視認を容易にすると共に集魚・捕食効果を上げるために、外形面に夜光塗料を塗布することが考えられるが、夜光塗料には微量ながら毒素の含有が認められるものがあるので、釣れた魚を食することを考えると、その使用は控えるべきものである。

【0005】上記の夜光塗料に代え、暗がりでの釣りを可能にする手段として、内部に発光体を内蔵することも考えられるが、前述のように、ルーアの外表面には集魚・捕食効果を上げるために光沢性の着色が施されるため、内蔵した発光体の光が外部へ放散されない。このため暗がりの釣りの役に立たない。

【0006】そこで、この発明は、アルミ蒸着や塗装によることなく所望の着色を施し、かつ発光体を内蔵した場合にその光の外部への放散が可能なルーアを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するた

めに、この発明は、透明又は半透明のルーア本体の内部に電池及びその電池に通電された発光体を内蔵してなるルーアにおいて、上記ルーア本体の中心線と直角方向の断面形状が多角形であるように該ルーア本体を形成し、上記ルーア本体の外周面に着色部と透明部とが混在したフィルムを貼着した構成としたものである（請求項1）。

【0008】なお、上記ルーア本体は、胴部及びその胴部の後端に連続した尾部を有し、上記胴部の表面はルーア本体中心線に平行な多数の平面により形成され、上記尾部の表面はその後端に至るに従い上記中心線に近づく傾向の傾斜した多数の平面により形成された構成とすることができ（請求項2）。

【0009】

【作用】上記構成のルーアは、発光体が発光するとその光がルーア本体及びフィルムの透明部を通じて外部に放散される。またルーア本体の外形面は平面の集合形状であって曲面部分がないので、製作時のフィルムの貼着が容易にできると共に、貼着後は密着性が強いので剥離しにくい。

【0010】

【実施の形態】以下この発明の実施形態を添付図面に基づいて説明する。ルーア本体1は、図1から図2に示すように胴部2とその後端に連続した尾部3及び胴部2の前端面4下部に前方に突き出して形成された抵抗板5とから成る。上記のルーア本体1の胴部2はその中心線に直角の断面形状が、図3に示すように八角形をなし、その外形面は上下に対向した平面6を含む8つの平面で形成され、その下端の平面6'の延長上に前記の抵抗板5が突設される。この抵抗板5は、前端面4の下端部から前方に傾斜し、平面視形状が台形をなす。そして、その前端において、下端の平面6'の延長部分と交わる。

【0011】また尾部3もその中心線に直角の断面形状が、前記胴部2に連続した八角形をなし、8つの平面7、7'で形成されるが、その断面形状は後部に至るに従い小さくなっている。即ち、尾部3は全体として後端側が細くなるテーパ状をなすが、下端の平面7'のみが、図2に示すように尾部3の中央まで急なテーパを有し中央から後端までのテーパは緩やかになっている。

【0012】上記のルーア本体1は、図3に示すように、中心線を含む上下方向の面で二分割された一対の本体分割体8、8'をその分割面で突き合わせて接着一体化することにより構成される。

【0013】各本体分割体8、8'は実質的に同一形状をなし、その分割面の前端部中央に前面に開放された断面半円形の収納前室9を有し、その収納前室9の後端中央にこれより小径の断面半円形の収納後室11が連通状に形成され、更に、その収納後室11から尾部3の後端にわたる部分及び、該収納後室11の上部に空洞部10が形成され、その空洞部10によりルーア本体1の尾部

3及び胴部2上部の軽量化を図っている。また、上記収納後室11の下部に三個所の錘り収納凹所12が形成される。また上記の収納前室9の前端部に半周状のネジ部14が設けられる。

【0014】なお、上記の一方の本体分割体8の分割面にダボ16が胴部2の前端上部と、後端下部及び尾部3の後端部の三個所に設けられ、そのダボ16に対向した嵌合凹所17（図3参照）が他方の本体分割体8'の対向面に形成される。

【0015】上記の各本体分割体8、8'を組合せるに際し、一方の本体分割体8の各ダボ16に8字環18を差入れ、各8字環8の一端を外部に露出させる。更に分割収納凹所12に球状の錘り20を収納する。その上で他方の本体分割体8'を合わせて接着一体化することにより、ルアー本体1が形成され、両方の収納前室9、収納後室11、錘り収納凹所12、空洞部10、ネジ部14、錘り収納凹所12がそれぞれ対向して、これらの各部を完成させる。

【0016】上記のルアー本体1の外表面に胴部2の先端部分を除く部分と、尾部3の外表面に着色フィルム19が貼着される。この着色フィルム19は、ベースフィルムにインキ層、粘着層及びアプリケーションフィルムを順次積層したものであり、その模様は四角形の着色部21と格子状の透明部22とが混在したものであり、着色部21は光沢性をもたせた適宜な色に着色される。この着色部21と透明部22の形状は自由に選定することができる。例えば、着色部21に円形の透明部22を散点状に配置したり、或いは透明部22を魚鱗状に配置したりすることができる。

【0017】上記の着色フィルム19は胴部2及び尾部3の外表面が平面6、6'、7、7'の組合せにより形成されたものであるため、外表面に曲面を含むものに比べ、シワを生じさせることなく、容易に、しかも正確に貼着することができる。

【0018】なお、胴部2の前端部外形面には、他の着色フィルム23が貼着される。この着色フィルム23に代え、透明フィルムを貼着してもよいし、またこの部分も前記と同じ着色フィルム19を貼着してもよい。

【0019】上記のルアー本体1の両方の本体分割体8、8'によって形成された収納前室9と収納後室11には、透明プラスチックでなる電池ケース24が収納される（図2参照）。この電池ケース24は、図4に示すように、一対のケース分割体25、25'により構成される。

【0020】上記の各ケース分割体25、25'は、図5に示すように、それぞれ半円筒形の電池収納部26の後端にこれより小径の半円筒形の発光体収納部27を一体に形成したものであり、電池収納部26と発光体収納部27の間に隔壁29が設けられ、その隔壁29に負極リード線31の導入溝32が設けられると共に、その外

側に正極リード線33の導入溝34が形成される。

【0021】また、発光体収納部27の後端に光ファイバ35の挿入溝36が形成される。上記の電池収納部26、発光体収納部27、隔壁28、導入溝32、34、挿入溝36はそれぞれ各ケース分割体25、25'を対向させ、接着一体化させることにより、各部が完成されるが、その接着に先立ち、一方のケース分割体25の発光体収納部27の内部に発光ダイオード等の発光体37が収納され、その負極リード線31が前記の導入溝32を通して電池収納部26に導入される。また正極リード線33が外側の導入溝34を通して電池収納部26に導入される。

【0022】電池収納部26の内部において、各リード線31、33の先端は、電池38の負極と正極に接触するように屈曲されて接点39、41となる。また、光ファイバ35がその挿入溝36に挿入され、その光ファイバ35の一端を発光体37に接近させると共に他端を外部に露出させる。その上で、他方のケース分割体25'を合わせて接着一体化する。

【0023】上記のように一体化された電池ケース24は、ルアー本体1の前端面4の開放部分から挿入され、その電池収納部26が前記の収納前室9に収納されると共に、発光体収納部27が収納後室11に収納される。また電池ケース24の後端面と収納前室9の後端面の間にシール用のリング42が介在される。更に、電池収納部26に収納した電池38の前面にゴム等の弾性クッション材43を介在して閉塞蓋45をネジ部14に螺合して電池38を締付け、その正負各極を前記の接点39、41に接触させる。

【0024】そうすると、発光体37が通電により発光し、その光が透明な電池ケース24、ルアー本体1及び着色フィルム19の透明部22を通して外部に放散される。

【0025】また、光ファイバ35を通じて尾部3の内部に導かれた光は、尾部3の着色フィルム19の透明部22を通して外部に放散される。

【0026】なお、閉塞蓋45の表面には、凹所40が設けられ、コイン等をこれに係合してねじ操作ができるようになっている。

【0027】実際の魚釣りに際しては、図2に示すように、胴部2の前端上部にさる環を介して道糸44を接続すると共に、胴部2の後端下部の8字環18と尾部3の8字環18にそれぞれ釣針45を取付ける。このような仕掛けを取付けた釣竿により、ルアー釣りを行う際に、早朝や夕暮れの暗いときは前記の電池38を入れて発光体37を発光させ、外部に放散される光により釣人はルアーの存在を視認する。同時にその光が集魚・捕食効果を高める。また、昼間など明るいときは、電池38を外しておく。この場合は着色フィルム19の着色部21及び着色フィルム23により釣人はルアーの存在を視認

し、またそのこれらの着色により集魚・捕食効果を高める。なお、錘り20はルアー本体1の姿勢を安定させる作用をなす。

【0028】上記の実施形態においては光ファイバ35を用いたものを示しているが、発光体37の光が尾部3に届く場合は、光ファイバ35及びその挿入溝36は省略してもよい。

【0029】

【発明の効果】以上のように、この発明によればルアー本体の外表面に貼着したフィルムの透明部分から発光体の光を外部に放散させることができるので、暗がりにおいても釣人がルアーの存在を視認することができる。このため、魚の捕食活動が活発化する早朝や夕暮れ時にルアー釣りを行うことができる。

【0030】また、ルアー本体の外表面は平面の集合で形成されるので、フィルムの貼着が容易であるとともに、シワの発生が無く、正しく貼ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施形態の斜視図

【図2】同上の使用状態の縦断側面図

【図3】同上の使用状態の縦断正面図

【図4】同上の分解斜視図

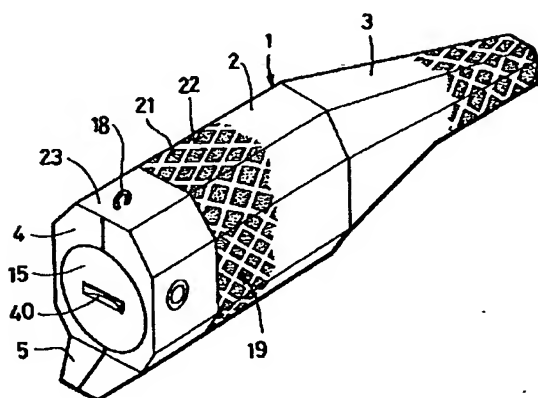
【図5】同上の電池ケースのケース分割体の側面図

【符号の説明】

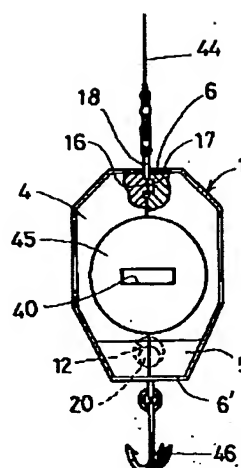
- 1 ルアー本体
- 2 胴部
- 3 尾部
- 4 前端面
- 5 抵抗板
- 6、6' 平面
- 7、7' 平面
- 8、8' 本体分割体
- 9 収納前室

- 10 空洞部
- 11 収納後室
- 12 錘り収納凹所
- 14 ネジ部
- 16 ダボ
- 17 嵌合凹所
- 18 8字環
- 19 着色フィルム
- 20 錘り
- 21 着色部
- 22 透明部
- 23 着色フィルム
- 24 電池ケース
- 25、25' ケース分割体
- 26 電池収納部
- 27 発光体収納部
- 29 隔壁
- 31 負極リード線
- 32 導入溝
- 33 正極リード線
- 34 導入溝
- 35 光ファイバ
- 36 挿入溝
- 37 発光体
- 38 電池
- 39、41 接点
- 40 凹所
- 42 Oリング
- 43 クッション材
- 44 道糸
- 45 閉塞板
- 46 釣針

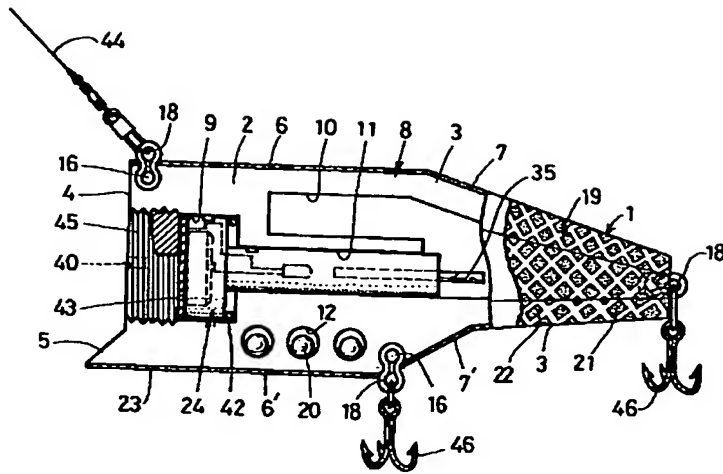
【図1】



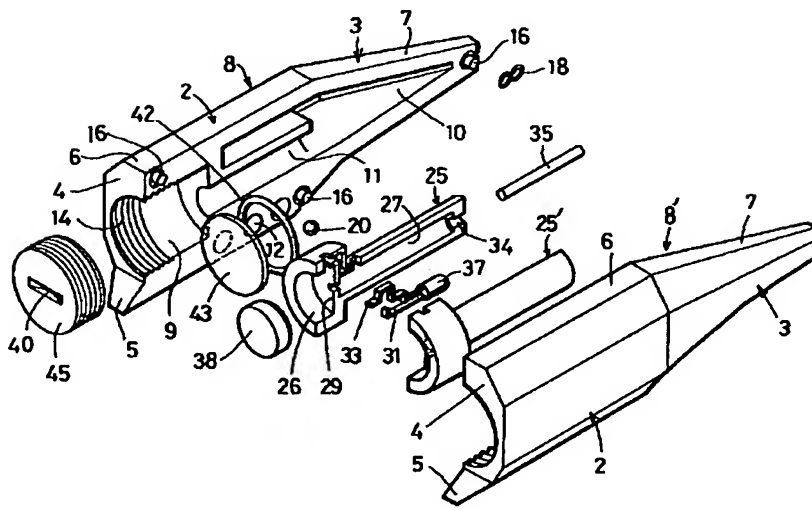
【図3】



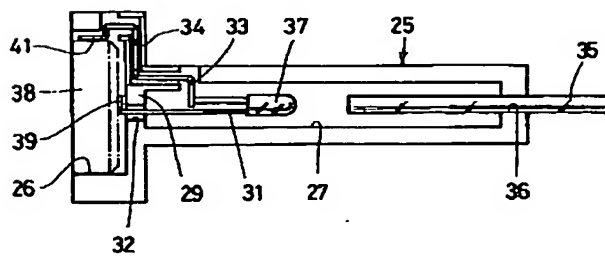
【図2】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP410127210A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10127210 A
TITLE: LURE
PUBN-DATE: May 19, 1998

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
YAMANOI, SHUNSUKE

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
YAMANOI SHUNSUKE N/A

APPL-NO: JP08286938
APPL-DATE: October 29, 1996

INT-CL (IPC): A01K085/01

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable lure fishing in the dark, by emitting the light of an illuminant to the outside without losing effects of lustrous coloring when a battery and the illuminant are housed in the interior of a lustrously colored lure.

SOLUTION: The surface of a lure main body 1 is formed by the group of a great number of planes so as to make a polygonal crosssectional shape in the direction perpendicular to the center line of a transparent lure main body 1 housing a battery and an illuminant in the interior. The surface of the lure main body 1 is stuck with a colored film 19 comprising

colored parts 21 and
transparent parts 22 in a mixed state.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.